

性虐待被害者のための

いの つぐな
祈りと償いの日

2026年3月6日(金)

教皇庁未成年者保護委員会 性虐待被害者のための祈りⅡ

天の父よ、あなたは、すべての子どもたち、とりわけ最も小さく、
弱い立場におかれた子どもたちを愛し、心にかけておられます。

性的虐待によって、信頼と純真な心を傷つけられた多くの子どもたち、
そして弱い立場におかれた成人の方々を、
あなたの豊かな慈しみによっておまもりください。

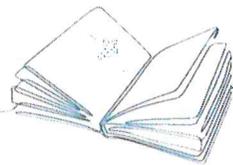
私たちが、傷つけられた多くの方の苦痛の叫びに耳を傾け、
責任ある行動をとっていくことができるよう支えてください。

被害を受けた方が、身近な人々や家族からの理解と支えを見出し、
また、あなたの恵みと慈しみによって癒され、
平安のうちに歩むことができますように。

わたしたちの主、イエス・キリストによって。アーメン。

(子どもと女性の権利擁護部門 意識)

Day of prayer and penance for the victims and survivors of sexual abuse



2026年「性虐待被害者のための祈りと償いの日」にあたって

日本の教会では、教皇フランシスコの意向に従って「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を四旬節・第二金曜日を祈りと償いの日と定め、2026年にあつては、来る3月6日がこの日にあたります。

四旬節は償いと回心の時ですが、この日を教会全体として、罪を償い、特に性被害に遭った方々のために祈り、またその方々の尊厳が回復されるように尽くす決意をするのです。

最も弱い立場にある人々を守ることがイエスの生き方であるにもかかわらず、教会の指導的立場にある聖職者が過ちを犯し、被害者の方々に深く傷つけました。日本カトリック司教団として、そのことを真摯に受け止め、被害を受けた方々に心より謝罪いたします。

と同時に被害を受けた方々の傷を少しでもいやすために、教会内外のいわゆる外部専門家の方々とも協力し、ふさわしく対応していきたいと思えます。

「信頼が失われることで最も苦しめられるのは、もっとも弱い立場の人、保護を必要とする人です。教会が信頼を得ていれば、透明性、説明責任、評価の実践はその信頼の堅固さに寄与します。このことは未成年者や社会的弱者の保護においてとりわけ重要です。」とシノドス最終文書は述べています。（「シノドス流の教会」97）

教会内には、被害を受けた方々の保護とケア、事例への説明責任と透明性の確保など、信頼を得るためには不十分な点が見受けられます。

今後とともに、いのちの尊厳を守り抜くための努力を怠らない教会、被害を受けた方々と歩みをともにする教会、あらゆる虐待や暴力を見過ごすことなく、すべての人が安心安全のうちに歩める教会、への変革を確固たるものにしていきたいと思えます。

2026年2月1日

日本カトリック司教団
子どもと女性の権利擁護部門
担当司教 森山信三

いのちと人権が守られる教会となるために

福音書によると、人々が子どもたちをイエス様に触れていただくために連れてきました。それを見た弟子たちがこの人々を叱りました。（マルコ 10:13）

弟子たちは誰に対して、何を叱ったのでしょうか。

乳児であれば自分でイエスのもとに行くことができませんので、お母さんたちが子どもを連れてきたと考えるのが自然でしょう。そうすると、弟子たちが叱ったのは、イエス様のところに子どもを連れて来た母親たちに対して、こんなところに子どもを連れてくるものではないということで叱ったと考えられます。

そこでイエスが今度は弟子たちに「憤って」いわれたのが次の言葉です。

「子供たちをわたしのところに來させなさい」（マルコ 10:14）

イエスは、弟子たちが子どもたちの立場を否定的に見ていること、もっと言うと、子どもたちの人権を認めようとしない弟子たちを叱ったのです。

このことばは「そのままにしておきなさい」（フランシスコ会訳）とも訳されており、原語は「ゆるす、そのままにしておく」ということですが、そこから「解放、自由を与える」といった意味となります。

すなわち、イエスは、弟子たちが子どもの本来持っているはずの権利を認めようとせず、疎外したことに憤り、子どもたちを解放しなさい、子どもたちの自由を尊重してあげなさいと言われたこととなります。

「神の国はこのような者たちのものである」（同 10:14）の「このような者」とは、イエスの時代の子どもの代表される、人としての人権を認められていない人々、あるいはその権利を蹂躪されている人々、またその価値や尊厳を踏みにじられている人々のことをいいます。

私たちキリスト者の生き方は、イエスが考えたように考え、イエスが生きたように生きることです。であるならば、この日は、現代において、さまざまな状況において人間の尊厳を無視されている人々のことを思い起こし、祈り、私たちにできる行動をすることが求められている日なのです。